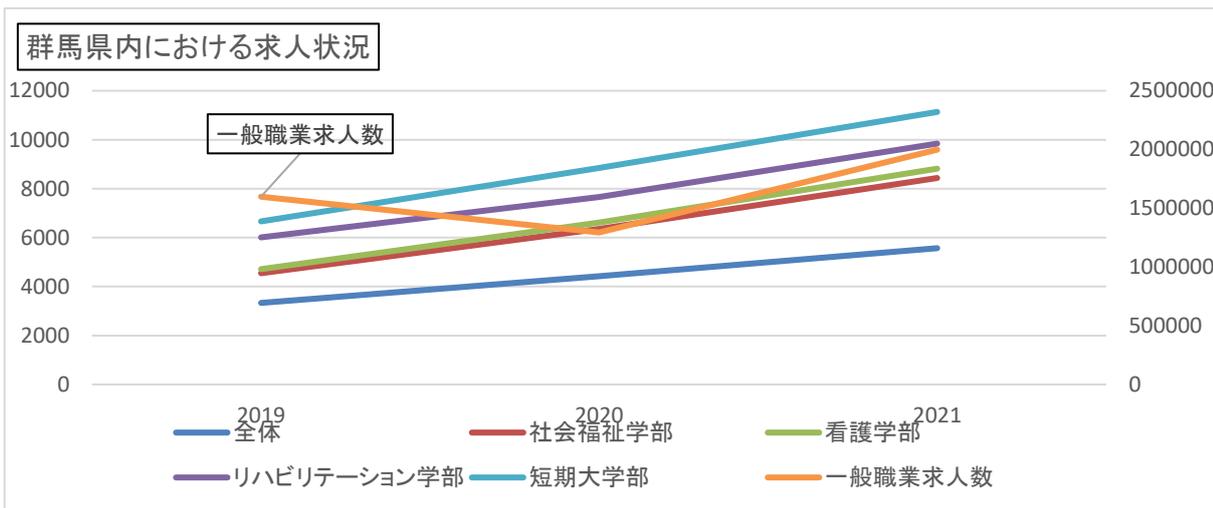


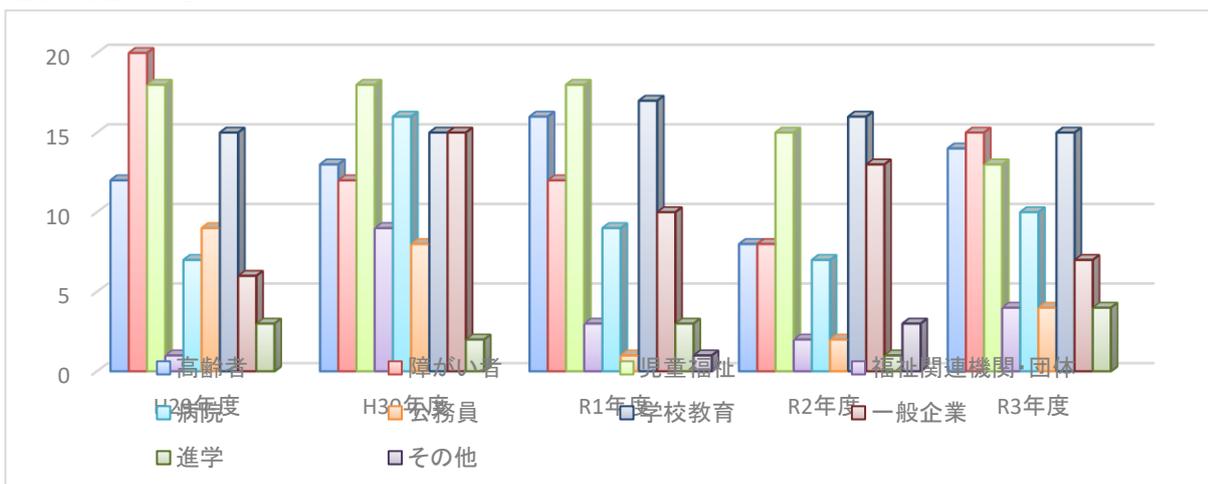
群馬医療福祉大学進路状況推移

厚生労働省と文部科学省では令和3年度大学等卒業予定者の就職内定状況を共同で調査し、令和3年2月1日現在の状況がとりまとめられ、大学の就職内定率は89.7%（前年同期比0.2ポイント上昇）となり、このうち国公立大学の就職内定率は、91.4%（同0.9ポイント低下）、私立大学は、89.2%（同0.6ポイント上昇）であった。また、短期大学の就職内定率は、86.9%（前年同期比4.2ポイント上昇）と前年度より大幅に増加する結果となった。一方で、2021年6月1日時点での就職内定率は、56.9%となっており、2020年卒の学生の同時期内定率と比較すると、13.4%低くなっている。これは、2020年1月より日本でも感染の広まっている新型コロナウイルスの影響と考えられ、緊急事態宣言により採用活動・就職活動を自粛せざるを得ない企業や就活生が増えたことで、4月の就活の停滞により、大きく出遅れてしまったと感じている就活生が急増したことが考えられる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で近年は求人数も上昇傾向が続いていたが、今年度に関しても全体的な求人数は増加傾向にある。医療福祉業界においても対面ではなくオンラインでの説明会や面接をおこなう施設や病院も増えていることから、今後の新しい就活の形に順応していくには、これらのサービスを積極的に活用していく必要があると考えられる。2021年度卒業生の進路状況推移を実施し、各学部の状況を把握するとともに、変わりゆく社会状況にあわせ、質の高い人材を育成し、



【社会福祉学部】



社会福祉学部は他学部 비해、進路先が広範囲に分かれている。例年公務員志向が強いため、公務員等対策委員会と協力し、継続的な検討が必要となる。短期大学部から編入生が多く在籍している年度は比較的介護現場での就労意識が高い。

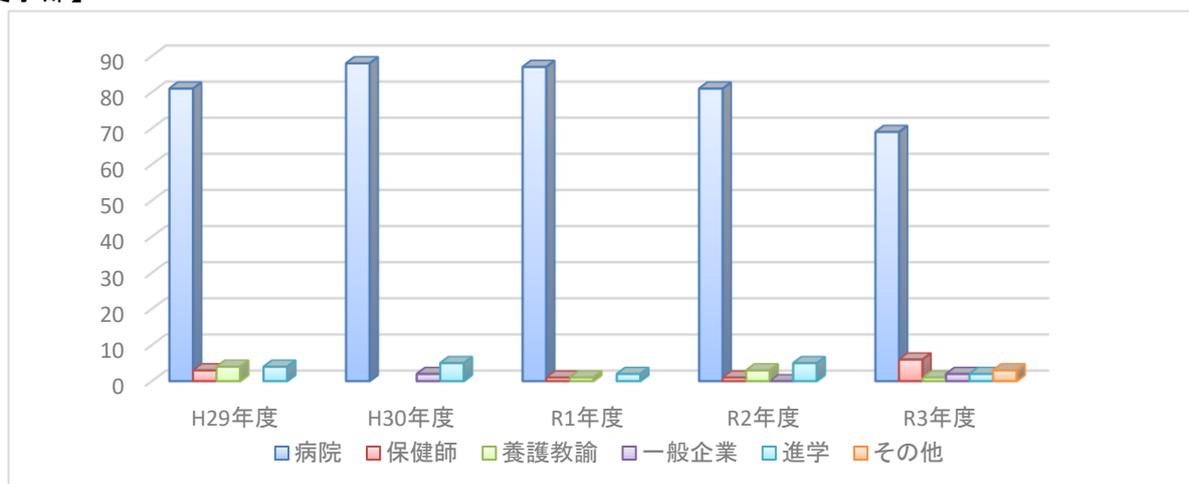
社会福祉士の活躍の場は福祉施設・医療施設・介護施設の他に、学校や少年院などもあり、多くの分野に跨っていることが現状にある。それぞれの場所から幅広い種類の求人需要があり、本学の求人推移を見ても2019年度から件数が年々増え続けている。

また、社会福祉士・介護福祉士の就職先で大きな役割を担っている高齢者向け施設においては特に需要が伸びており、社会の高齢化に伴って施設数も利用者数も増加していることから、求人数も2020年度から増加傾向にあるため、今後もさらに増えていくことが予想される。

また、厚生労働省の調査によると、直近の令和3年度の保育士の有効求人倍率は2.66倍となっており、依然高い水準で推移している。

少子高齢化が進む日本の現状を見ると、子どもの数が減少していることから保育士の需要も少なくなるのではと考えるが、需要はどんどん高まっており、保育施設の将来性は、介護と並んで高いもの

【看護学部】

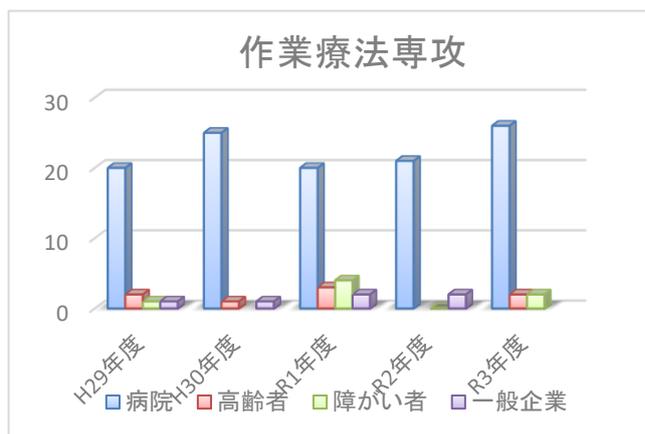
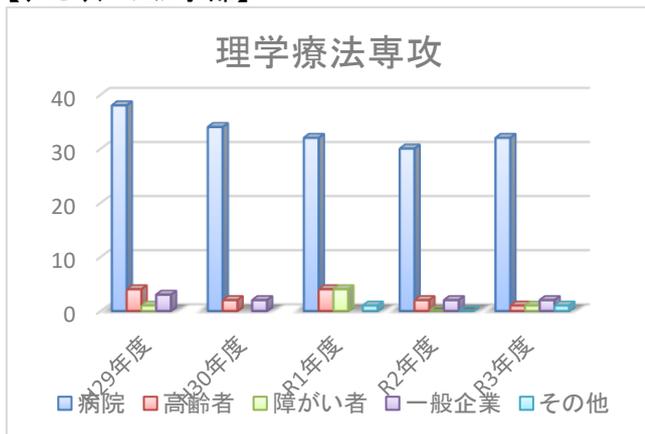


看護学部は他学部とは違い、求人募集や就職活動の動きが早く、5月末時点での内定率とその後の内定率では10%程度しか変わらない。また、求人数は年々増加傾向にあり、奨学金制度を充実することで、看護学部入学時に就職先が決定しているというような病院も増えている現状にある。

日本看護協会の統計資料によると、看護職員の就労数は毎年増加傾向にあるが、医療業界市場の全体を俯瞰してみると医師、看護師の人手不足が深刻化しており、需要が高まっていることが考えられる。

2021年の有効求人倍率では、看護師を含む「保健医療サービス」は2.73倍という数字になっており、医療現場の「2025年問題」として病院や診療所などの医療機関だけでなく、高齢者施設や訪問看護などの業界でも看護師の必要性が重視されている。また急性期の医療から、介護施設、在宅医療、訪問看護や地域包括ケア事業施設における看護需要が増加すると考えられており、現に、介護関連での看護の需要は高まりつつあり、今後も高齢化にともない年々需要が増加すると見込まれている。

【リハビリテーション学部】



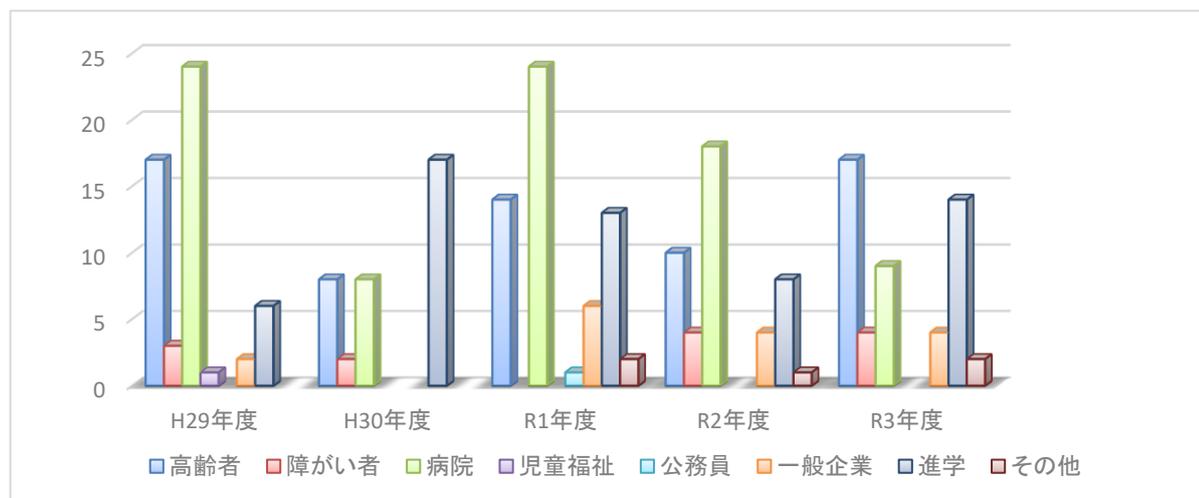
理学療法士の活躍の場は広がっており、医療分野だけでなく、介護・福祉分野やスポーツ分野など、様々な職場での需要は高まっている。しかし、全国的に供給過多の傾向があり、本学の学生は就職先を群馬県外まで広げなければならないのも現実である。

作業療法士が働く場所は、病院・施設と様々で、地域包括ケアシステムにおける在宅支援においても専門性を十分に発揮するための就職先が選ばれている。本学の求人推移を見ても、常時新たな求人も次々と来てはいるが、2019年度から減少傾向にあり、施設によっては需給状況が異なっているのが実情で、一部の病院では必要な人員が充足していたり、採用倍率が他の施設より高かったりするところもみられる。一方で、介護系の施設では作業療法士不足により「急募」となっているところもあるなど、働く領域によって求人数には偏りが出てきていることが現状である。

また、国が地域共生社会の実現という方針を示しており、理学療法士・作業療法士が活動する領域は、現在の病院・施設が中心で、徐々に地域活動に根ざした職へ変遷していくことが予想される。

養成校の統廃合による定員数減少の可能性があること、理学療法士・作業療法士の職域の変化などのから、全国で就職率が低下する可能性があることも考えられる。

【短期大学部医療福祉学科】



短期大学部医療福祉学科の中には介護福祉コース及び医療事務秘書コースがある。

介護福祉コースは高齢者施設へ、医療事務秘書コースは病院等の医療事務として勤務している。

また、本学社会福祉学部3年次、短期大学部内の専攻科(診療情報管理教育)へ編入学や進学するものが例年出ている。

短期大学部(介護)向けの求人は伸び続け、介護人材の就職に関しては好調である。

医療秘書・事務コースでは、総合病院の医療事務求人に加え歯科、眼科や皮膚科など、単科病院の医療事務求人割合は約3割であり、今後就労先を決めるにあたり、総合病院だけでなく単科病院への就職も視野に入れていく必要がある。また、歯科医院の受付事務兼歯科助手求人が増加している現状であり、さらにはドラッグストア等へ「登録販売者」の資格を活かした職に就いたものもみられた。